

## 母の応援に勇気

新座市立池田小5年

葛原 花凜 11(新座市)

寒くなると、私はいつもカイロをポケットにしのはせて登校する。朝の空気は冷たくて、手がかじかんでしまおうけれど、カイロを握ると、じんわりと温かさ広がる。まるで小さな太陽を持ち歩いているみたいだ。

でも、先日行われた書き初め大会の日、うっかかりカイロを忘れてしまった。冷たい体育館でじっと座って筆を握ると、案の定手がかじかんでうまく動かさない。周りの友達はカイロを持っていて、うらやましくなった。

すると、家を出る前に母が言ってくれた「がんばってね！」の声を思い出した。その言葉が、心の中でじわっと温かくなつて、冷えた手でもなんとか最後まで書きまわることができた。

母の応援という心のカイロが、私に勇気を与えてくれた。寒い日だったけれど、気づけば手より先に心はポカポカになっていた。